

愛媛大学

平成22年度土木海洋会だより

— 第16号 —



Mine Engineering
Civil Engineering
Ocean Engineering
Civil & Ocean Engineering
Civil & Environmental Engineering

目次

ごあいさつ	(会長 河野 徹 土木42年卒).....	1
学科だより	(副会長 環境建設工学コース長 岡村 未対).....	2
離任の挨拶	(愛媛大学名誉教授 山口 正隆).....	3
	(愛媛大学名誉教授 柏谷 増男).....	5
	(新居浜工業高等専門学校校長 鈴木 幸一).....	6
	(教授 吉井 稔雄).....	7
新任教員の挨拶	(中国支部長 新宮 勝哉 土木42年卒).....	8
新規役員の挨拶 支部だより	(関東支部幹事長 黒坂 佳司 海洋57年卒).....	10
	(近畿支部 富田 康雄 土木52年卒).....	11
	(中国支部幹事長 村下 耕荘 海洋54年卒).....	13
	(愛媛支部幹事長 明日 孝憲 土海9年卒).....	14
	会員だより	(宗片 康修 鉱山38年卒).....
	(松尾 暁 土海7年卒).....	21
同窓会報告	(藤原 隆一 海洋56年卒).....	22
	(中島 淳子).....	23
	(門田 章宏 土木4年卒).....	25
	(岩丸 純芳 鉱山37年卒).....	26
平成22年度総会報告		28
会計報告		30
事務局だより		32

会長就任のご挨拶

会長 河野 徹 (土木42年卒)



皆様ご機嫌いかがですか？この度、鈴木先生が急遽転任となり、その後任をおおせつかりました土木S42年卒の河野です。

我々建設業及びそれに関連する業種はこの数年間低迷をしています。景気の良い話が同窓生間では聞けなくなって暫く経ちます。我々その絶好調期間を経験した者にとっては寂しい限りです。その中で同窓会活動の財源となる会費徴収も景気の後退に合わせるようにうまく進んでいません。

我が国は開国以来、西欧諸国と比べて遅れている社会資本の整備に積極的に進めてきました。しかし現時点で欧米諸国と比較してみると乗用車普及率、パソコン所有率、一人当たりの公園面積、などを含めた社会資本の大部分が欧米の50%程度かそれ以下であります。とても豊かさを感じる状況ではありません。一方、一人当たりのGDP、貯蓄残高は欧米の以上でその5割増しであります。

国の税収と債務はアンバランスであり、これを平均的家庭に置き換えると年収400万円の家庭に借金が9千万円以上ある状態です。借金は通常は年収の5倍程度が上限と今迄は聞いてきているので、この9千万円の借金はとてつもない大きな額で限度額の4倍以上であります。この様な瀕死の財政事情に対して建設投資の拡大を望む事は難しい事と誰の目で見ても判ります。しかし、要望事項は沢山有るが先立つものがなく、それではこのままで良いのかという事であります。

古代より日本人は努力して変革し必ずそれを成功してきました。そのDNAが我々の体の中にあります。それは『和を持って尊しとなす』、『広く会議を興し万機公論に決すべし』の精神に見られるように皆さんで話し合って決めましょうという事だろうと思います。皆様の忌憚のないご意見を伺いながら我々の新しい時代への模索を始めましょう。新しい時代への行動指針が明確になるまでには時間はかかることでしょう。それは明治政府発足から22年後に憲法が發布されたと同じようであるかと思えます。

停年を待たずに退社せざるを得ない状況になる事も増えてきています。一方平均余命は伸びてきて運よく60歳まで会社に勤務する事ができても、それ以降22年くらいは頑張らなければなりません。技術者にも退社定年はありますが、会社から離れ

る事はあっても、技術者自身を辞める必要はないので。そのために社会変化を読み取り継続研鑽が必要になってくるでしょう。皆さん一緒に学び思考を巡らそうでは有りませんか。

~~~~~ 学科だより ~~~~~

## 学科だより

土木海洋会副会長 環境建設工学コース長

岡村 未村

我が国の国立大学は2004年の法人化後、国から交付される運営交付金が毎年1%ずつ削減され、また研究や教育、社会貢献の質と量を第三者ら評価され、その結果によっては存亡の危機にさえ立たされる時代になりました。土木の分野では、ふんだんな公共事業費の元で安穏とし、また大学教育においても“如何にものを作るか”というハウツー的な講義を戦後一貫して続けてきました。しかしながら、急速に人口転換が進むに伴い建設投資額の大幅な減少が続き、業界は仕事の質・量・内容が変化し、大学は教育の内容と方法の改革の社会適用性が高まり、さらに若者の理系離れが進むことにより次世代を担う優秀な人材の確保に苦慮することになりました。

愛媛大学環境建設工学科では、これまでものを作る技術を中心とした教育を行ってきましたが、自然・社会環境の維持・創出という大きな枠の中で、これと密接に結びついた技術体系としての土木を理解した技術者の教育を行うことを目指した教育プログラムへと転換を図ります。その一つが、平成23年度から「土木工学コース」と「社会デザインコース」の2コース制による教育です。詳細については学科のホームページ等に譲ることとしますが、「Civil Engineering」の名の通り、土木の仕事は技術者だけのものではなく、本来は社会で暮らす市民との協働によって成り立つものであることから、「社会デザインコース」では文系の学生をも受け入れ社会学との境界領域に積極的に立ち入る教育プログラムを提供するものです。教育の内容を変えると共に、理系に限定せずに優秀な人材を集めることを目的としたものです。このような教育コースの前例はほとんどありませんが、3年の年月を費やして学科の教員が検討を重ねた結果たどり着いた一つの形であり、壮大な実験といえ

るかもしれません。環境建設工学科およびその前身の学科で築上げてきた経験と活力をさらに発展させることが出来るよう、教職員一同精一杯努力する所存です。卒業生を始め多くに方々のご支援とご指導ご鞭撻をお願いする次第です。



左端が筆者、卒業・修了生たちと研究室にて2010.3.24

離任の挨拶

## 「この頃思うこと」

愛媛大学名誉教授

山口 正隆



最近、私にとって“喜ばしいこと”と“嫌なこと”がそれぞれ1つある。前者はイチローによる10年連続200本安打の達成である。これは大いなる独創性のみならず偶然性・幸運性に左右されるノーベル賞と違って、天性の才能に加えて日常的な不斷の努力の積重ねにより可能になるものであり、毎日のバスの中で流れるニュースのテロップをみながら「早く達成されれば」と心の中で念じていたものだから、この偉業にはずいぶんと勇気づけられた。正しく、

イチローは中高年の者にとって希望の星であり、引き続き“元気”がもらえるように記録が11年、12年……と延びることを期待している。一方、“イヤなこと”は尖閣諸島をめぐる中国から投げかけられたトラブルです。日本はロシアとの北方四島問題、韓国との竹島問題（日本海の呼称を含めて）、中国・台湾との言いがかり的な尖閣諸島問題を抱えているのは知っていましたので、今更驚くべき事態ではありませんでした。今日のバスの中のテロップによれば、中国が尖閣諸島海域の共同開発を提案し、日本がこれを拒否したとのこと。正しく中国の本音丸出しのところですよ。しかし、世界におけるレアアース生産の中国への1極集中の状況は全く知りませんでしたので、その実質的な輸出禁止措置にびっくりするとともに、深刻な問題として認識しました。これは「CHina riskの現われ」とみるべきもので、短期的な経済有利性があるにせよ、原材料の輸入や工場の立地を、近年の歴史でも友好的であり続けるには不断の努力が必要な国に全面的に依存してしまうことが、いかに危険・無謀であるかを示す良い事例であり、レアアースに限らず基本的に多極分散型の国家経営戦略が必須と考えます。過去4,000年にわたって、王朝の交替と異民族の支配を繰返し受けた経験から、“したたかな”外交戦略を身に付けている隣国とつきあうことは、島国としての歴史を経てきただけの単細胞的なわが国にとって容易なことではありません。もう少し話を広げると、この出来事は危機管理の重大さを示唆するものです。危機管理と言えば、もう1つ気になっているのが自然災害、とくに東京で生じる直下型大地震による大災害であります。東京（江戸）では近世以降も元禄、安政、大正（関東大地震）と100年前後の間隔で大地震による大規模災害が生じてきましたが、つぎの大地震では資産や人口の超過密な1極集中状態にある東京あるいは日本が壊滅するほどの未曾有の被害が出る可能性が高いと危惧しています。同様に、慶長、宝永、安政、昭和と続いて生じた海溝型東海・東南海・南海地震とそのときの津波による被害も大いに気になるところですが、やはり前者の大被害がより一層深刻と考えます。このほか、富士山、浅間山などの火山の噴火、地球温暖化によって巨大化した台風に伴い、東京湾、伊勢湾、大阪湾などを襲う超異常高潮とこれらに伴う大災害など、憂慮すべき事態に事欠きません。15年ほど前に伊勢湾・三河湾で伊勢湾台風時の高潮をはるかに上まわる高潮が生じるかもしれないという私達の研究成果を発表して、反論を受けましたが、最近では地球温暖化に伴う同様の結果の報告が出されており、あながち可能性がない訳でもないという状況にあります。天が落ちてこないかと心配して夜も寝られない人がいるという故事から、“杞憂”という言葉が生まれたそうですが、逆の意味で“杞憂”となる事態が生じるかもしれません。

いずれにしろ、こうした異常事態に対する国家の危機管理はきわめて重大・重要な事項です。日本はその不利な自然条件にかかわらず全国民の努力と超巨大自然災害が偶然的に発生しない時期に当たったという幸運に恵まれて、世界第2位の経済大国にまで発展しましたが、これが維持できるか否かは超巨大自然災害に対する危

機管理を適正に行いうるか否かにかかっているところも大きいと考えます。本当は、研究の話（研究残照）、大学の思い出話、などを書けば良かったのですが、筆の勢いでとりとめのない話になってしまいました。

## 近況報告

愛媛大学名誉教授

柏谷 増男



愛媛大学を退職してほぼ半年が過ぎました。半分慣れてきたような、まだ慣れていないような中途半端が身体のどこかに残っているようです。昭和50年7月に愛媛大学工学部海洋工学科に赴任して34年9ヶ月お世話になりました。この間、多くの方々に支えられて無事定年を迎えられたことを改めて御礼申し上げます。

3月末には学科の送別会をしていただき、ありがとうございました。また、5月22日には、旧教員の朝倉先生、羽藤先生、現教員の吉井先生、二神先生、倉内先生らのお骨折りをいただき、退職祝いの会を催していただきました。友人、知人のほか、たくさんの卒業生に来ていただき、大変うれしく思いました。特に、卒業生の皆さんが集まれた2次会の会場の熱気は旺盛で、このようにパワーあふれる人たちと長年暮らしてきたのかと、あらためて感激しました。卒業生の皆さんが、それぞれ社会で立派に活躍され、元気いっぱい語り合っている姿を見て、愛媛大学での人生は充実していたのだと確信した次第です。

現在は、(財)えひめ地域政策研究センターの特別研究員として週に2回、また以前から理事長をしていたNPO法人愛媛県建設技術支援センターに週に2回、愛媛大学防災情報研究センターに週1回出ることを、基本ローテーションにした生活を送っています。ただし、県や各市町村の委員会やそのための事前打ち合わせ会、勉強会などがあるので、必ずしもローテーション通りには行かず、ある程度節度は保ちつつ、ある程度は気ままに過ごしております。こうして、今までにお付き合いのなかった方々との出会い、また訪れたことのなかった土地での見聞等を楽しんでおりますが、一方では地域がさまざまな問題を抱えていることを改めて考えさせら

れ、勉強させていただいております。

高血圧、肝臓等、本人は余り気にしていないのですが、一応薬を飲み続けています。健康のため、毎朝1時間ほど散歩をしています。退職前に保健管理センターの佐伯先生から、“自然に親しむように”とアドバイスされました。同じ道筋を毎日歩いても退屈なはずですが、自然は思いがけない出会いを与えてくれ、私の気持ちを新鮮にしてくれます。幸い、野鳥観察が趣味ですので、さまざまな鳥に出会うことを楽しんでいます。先日、今年初めて雉のつがいを見ました。毎年いたのですが、開発が進んでもう住めなくなったのかと観念していただけに、ほっとした気持ちになりました。

## 一期一会

国立新居浜工業高等専門学校校長

鈴木 幸一



22年7ヶ月お世話になった愛媛大学工学部を3月末で退職しました。愛媛大学赴任当初は土木工学科でしたが、土木海洋工学科、環境建設工学科と所属学科の名称は変わりました。その間設立されました土木海洋会にもいろいろな形で関わらせていただき、卒業生を中心とする会員の皆様には大変お世話になりました。愛媛大学在籍中は、同僚の教職員に支えられ、多くの学生の教育と研究を通して、充実した時を過ごさせていただきました。大学の教員にとって学生は毎年代わり、卒業生の大半とは以後の人生において会う機会はまれです。私は、学生と接するときはずっと、学生とはいずれ別れて会うことはないであろうという、いわゆる「一期一会」を強く意識していました。したがって、学生と接する時間をできるだけ多く持ち、大切にすることに心懸けていました。日本から遠く離れたブラジルからの多くの留学生を受け入れていましたので、そのような思いが強かったのかも知れません。

河川工学を専攻していましたので、河川管理者である国土交通省や愛媛県の委員会に出させていただきます。その委員会で立派になった卒業生に会う機会があり、挨拶されると大変懐かしく、また親近感を覚えます。私の教えていた河川工学

が、少しは役に立っているのかなと思いきさやかな喜びを感じたりします。指導したブラジル人留学生にたまたま海外の学会等で会ったときには、再び会うことはないだろうと感じていましたので、大変感激したことがあります。卒業生の皆さんがそれぞれの道で、私のほとんど知らないところで芽を伸ばし活躍されていることを見聞きするにつき、教育者であったことの喜びを感じます。愛媛大学で出会った多くの学生が世に出ていきましたが、それぞれの場所で前向きに新しい道を切り開いて、飛躍されることを楽しみにしています。

一期一会とは申せ、これまで愛媛大学で関わり合った学生が大きく成長した姿に、いつかどこかで会えることを内心期待している今日この頃です。

最後になりましたが、土木海洋会の益々のご発展を心から祈念いたします。

---

#### 新任教員の挨拶

---

## 着任のごあいさつ

環境建設工学科

教授 吉井 稔雄

愛媛大学土木海洋会の皆様、はじめまして。このたび柏谷増男教授の後任として環境建設工学科に参りました吉井です。大阪で生まれ大阪で育ちましたが、四国とは縁がありまして、平成11年から14年まで高知工科大学でお世話になっておりました。その後一旦関西に戻りましたが、再度4月よりこの松山でお世話になることとなりました。

着任後、半年が経過しましたが、磨けば光りそうな素朴な学生がたくさんおりまして、いかにして輝いてもらうか、試行錯誤を繰り返しています。また、仕事を終えた後にふらっと一杯、多種多様な人々と交わる時間を持つことは、新しい発想を得る上で欠くことの出来ない貴重な時間です。飲んだ後のラーメンには強い不満を持ちながらも、都心に位置するキャンパスの恩恵を受けていることに感謝しつつ新しい生活を楽しんでおります。

さて、着任するにあたり、今後の研究、教育、社会貢献活動をどのように進めていくか、考えてみました。

“四十にして惑わず。”、研究に関しては、これまでの研究の進展を図ることと決

めました。私の専門は交通工学で、なかでも交通シミュレーションを活用しつつ各種交通施策の提案を行っていきたくと考えています。

“之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為す。是れ知るなり。”、教育に関しては、“無知の知”を獲得させることに力を注いでいきます。学生諸君は、わかったような気になっていてもわかっていない状況が多々あります。自身がわかっていないこととわかっていないことをしっかり区別できる人間になって欲しいと考えています。

“民は之をよらしむべし、之を知らしむべからず。”、安岡正篤先生の解釈によれば、“民衆というものは、常に自分に都合の好い、その場その場のことばかりを求めておるので、本当のことだとか十年・百年の計だとかいう様なことは解らない。従ってそれを理解させることはなかなかできないことである。そこで、兎に角訳はわからぬが、あの人のすることだから俺はついて行くのだという風に民衆が尊敬し、信頼するようにせよ。”ということです。よって社会貢献に関しては、3~4年が目安でしょうか、当分の間は地域の方々の信頼を得ること、すなわち人的ネットワークの形成に力を入れたいと考えています。

今後は、微力ではございますが伝統ある愛媛大学の発展に寄与できるよう研究、教育、社会貢献活動に励む所存です。OB / OGの皆様におかれましては、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

---

#### 新規役員の挨拶

---

## 土木海洋会中国支部より

中国支部長 新宮 勝哉（土木42年卒）



今年度より中国支部長を引き受けることに成りました“新宮 勝哉（昭42年卒）”と申します。先日支部総会に出席した所、前支部長の私的な理由で退任したいとの事から支部長改選の運びになり、その人選に苦勞していたので若手に引き継ぐまでの繋ぎにと思い立候補いたしました。総勢350人余りの会員をお世話する責任重大な役目ですが、他の役員の方々と力を合せ会員の方と意思の疎通を図りながら精一杯支部の運営に努力したいと思います。

中国支部は、年1回の支部総会と忘年交流会、それに会員相互の親睦を図るためのゴルフコンペを年3回程度開催しています。

支部総会は毎年8月初旬に開催されます。他の支部の現状は良くわかりませんが、中国支部に於いては総会出席者の過去6年間の実績を見るに、平均14人余りと低迷しているのが現状です。しかも出席者の大半が50、60歳代の年配者で、若手はほとんど皆無状態です。いずれの行事も出席者はごく少人数に限られ、会員相互の親睦とか会の発展には疑問を感じています。

会の将来を考えた場合、会への参加者を増やす事、特に若い人達に参加を求め、新しい息吹を吹き込んで貰う事が急務であると痛感しています。

そこで気になるのが“土木海洋会の魅力”だと思います。

若者達にとって土木海洋会とは何なのか、又この会に関わる事によって、自分どのようなプラス面が出て来るのか。この点を若者に十分説明し納得させなければ、参加意欲は湧いてこないと思われます。

日頃から若者達と交わることの多い大学の先生方は、彼らの考え方を身近に感じていらっしゃるのでは有りませんか。あるいは、若者たちに会に対するアンケートを求め、この会がどう有るべきかを問いかけるのも良いと思います。まずはこれから先を担う若者の考えを把握し、その考えを会の運営に反映させなければ会の発展は難しいと思われます。我々支部でも問題解決のため試行錯誤の努力をしますが、本部でも良い案件が出るようにご検討をお願いします。

以上、新任の挨拶方々疑問点を述べさせて頂きました。

これから、土木海洋会発展のため微力を尽くすつもりです。宜しくお願いします。

## 関東支部だより

関東支部幹事長 黒坂 佳司（海洋57年卒）



昨年末の薦田前幹事長の転勤に伴って、急遽、幹事長代理を引き受けることになり、平成22年度総会で正式に関東支部幹事長を仰せつかって数カ月が過ぎようとしております。

関東支部では設立当初の諸先輩方から面々と引き継いで来ました“この会を盛り上げて行く”と言う熱い気持ちと意欲的な取り組みにより、幅広い年齢層で活発に活動しております。

平成21年度の主な活動内容は次の通りでした。

- ・ 平成21年 7月 関東支部総会（参加者29名）
- ・ 同 10月 秋のレクリエーション（兼）新人歓迎会（同、19名）
- ・ 同 11月 第19回ゴルフ大会（同、9名）
- ・ 同 11月 第7号広報誌発行
- ・ 平成22年 1月 新年会（同、23名）
- ・ 同 4月 第2回ゴルフ大会（同、10名）
- ・ 同 5月 第8号広報誌発行
- ・ その他、年間を通して幹事会を開催（6回）

関東支部では、毎年、愛媛大学から先生をお招きしてご講演を頂く総会を始めとして、年に2回の懇親ゴルフ大会（大学時代に皆が通った大街道を振って“クラブOH!海土”と称しています）、幅広い年齢層で楽しめるように企画している秋のレクリエーション、色々な方面で活躍されているOB/OGの方にご講演をお願いしている新年会を活動の4つの柱としています。

支部から会員皆さんへの連絡には、今後は経費削減も兼ねてEメールを主体としたものに代えていこうとしています。これは、過去数年間に亘ってEメールへの変更を往復ハガキでの通信の際にお願いしていたこと、また、その際に今後もハガキでの連絡を希望する方をアンケート調査した結果によります。

昨年の本稿でも記載が有りましたが、やはり東京と言った地域特性からか人事異動/転勤などで転出・転入される方が多く、特に、新たに転入された方の把握に手

間取っております。知り合いの方が関東に転入されて来た場合は是非ご一報下さい。



## 近 況

近畿支部 富田 康雄（土木52年卒）



私が、愛媛大学を卒業した昭和52年3月は、現在と同様に不況で、特に、工学部の学生にとっては非常に厳しい就職難の時でした。私は、最終的には地元の高砂市役所に就職し、公務員の道を選びました。高砂市では、前年の台風により市域の約4分の1が浸水するという未曾有の被害を受け、遅れていた公共下水道の整備を市の最重点施策として取り組むことしており、私も下水道課に配属となりました。その後、下水道の計画・設計や管渠建設を担当し、23年間下水道技術者として勤めてきました。そして、2年余り都市計画課長を務めた後、平成14年11月に財政再建を第一の目的として設置された行財政改革推進室の一員として召集されました。私が召集されたのは、あらゆる部門での行政改革を進めていくためには、所謂、「技術屋」の視点も必要であると

ということが理由であったようです。行政改革案の策定作業は、非常にタイトなスケジュールで、連日、各課のヒアリングを行い、改革項目をまとめていくという作業が深夜まで続きました。そして、翌年の1月の中旬には素案をまとめ、2月には242項目の改革項目からなる第3次高砂市行政改革大綱の最終案を取りまとめました。その後、2年間行財政改革推進室長を務め、まちづくり部長を経たのち、平成18年11月に企画総務部長に就任しました。技術職の企画総務部長は、高砂市でもあまり例がなく、私自身も分からないことが多く大変苦労しました。そして、平成20年4月に現市長が市長に就任され、7月に副市長に就任いたしました。何分、私は市職員としての期間の大半を下水道整備を含む技術部門で送ってきたため、副市長となっても日々苦労の連続であります。しかし、まったく畑違いの企画総務部長の職を務めることができたのも、また、副市長として何とか務められているのも、技術職としての経験と行革室時代に市内の多くの事業の改革について担当職員と議論したことが大いに役立っていると思っております。

現在、高砂市では、平成23年からの10年間のまちづくりの指針となる「第4次高砂市総合計画」を策定しており、基本構想の議決を得るため、議会で審議をいただいております。この第4次総合計画は、健康・環境・文化をキーワードに「郷土に学び 未来を拓く 生活文化都市 高砂」を目指すべき都市の将来像としております。

非常に厳しい財政状況であり、また、国の制度改革など先行き不透明な時代で、市民ニーズも多様化しておりますが、市民の皆さんの参画を得ながら、住みよいまちづくりを進めていくよう考えております。

愛媛大学土木海洋会の皆様におかれましても、高砂市のまちづくりにご助言をいただければ幸いに存じます。今後ともよろしく願いいたします。

## いちカープファンの思い

中国支部幹事長 村下 耕莊（海洋54年卒）



私は広島カープの自他認める熱烈なファンである。

私は広島で生まれ育ち約56年間生活をしている。そのうち広島を離れたのは愛媛大学に通っていた7年間だけで、大学2年の際に広島カープが初優勝した。その優勝の瞬間を映りの悪い白黒テレビで広島のテレビ放送を見ながら、RCCラジオを聴いていた。ラジオのアナウンサーの叫び声とともに、私は人生初の身震いをした。あれから35年経過したがあれ以上の興奮を味わったことは、最初の子どもが生まれた時ぐらいしか記憶がない。

広島カープの黄金時代は1980年代で、私が社会人になった時期と重なる。カープの快進撃の時代は、私が最も仕事に充実感を持っていた時期であった。現在カープは20年間優勝から遠ざかり、14年間Aクラスから遠ざかっている。娘、息子に強いカープを見せたいものだ。カープのホームゲームでの勝ち負けの差が-10に対し、今年優勝したドラゴンズは+35である。情けない。ビジッターで負けても地元で勝って欲しいものだ。そうでないとファン離れが進む一方だ。

思い過ぎしかも知れないが、カープの凋落ととともに、私自身がおもしろいと思う仕事が減っていったような気がする。ここ当分はカープが強くなって、私がおもしろいと思う仕事が増える見込みはほとんど無いのではなからうか。悪い方に外れることを切に願う。

昨年緒方選手の引退試合を見た。その姿は自分を見るようであった。その試合で緒方選手は右中間を破る三塁打を打ちサードまでよたよたと一生懸命走りきった。さらに次打者の外野フライでタッチアップし本塁をねらってヘッドスライディングをした。悲しきかな、手はホームベースに届かずタッチアウト。引退もやむなし。私も自分のイメージどおり身体が動く時期はとっくに過ぎ去った。第2の人生を模索する時期が近づいたと思う今日この頃である。

# 愛媛大学土木海洋会 愛媛支部 活動報告

支 部 長 山田 康晴 (土木S53年卒)  
副支部長 勝谷 雄三 (土木S49年卒)  
幹 事 長 明日 孝憲 (土海H9年卒) (写真)



愛媛大学土木海洋会会員の皆様におかれましては、ご活躍のことと存じ上げます。

また、日頃より土木海洋会愛媛支部の活動にご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

さて、土木海洋会だよりの紙面をお借りして、平成21年度の活動報告を致します。

## 【平成21年度事業報告】

平成21年度は、役員会をはじめとして、ゴルフコンペを2回、忘年会を開催し、多数の出席を頂きました。詳細は下記に示します。また、ゴルフコンペと忘年会につきましては後ほど詳しくご説明します。

|                        |                  |        |
|------------------------|------------------|--------|
| 役員会開催 (H21.7.25)       | 議題：新規役員その他について   | 出席者13名 |
| 支部総会 (H21.8.29)        | 愛媛大学 朋友会館        | 出席者9名  |
| 本部総会 (H21.8.29)        | 愛媛大学 朋友会館        |        |
| 愛媛支部ゴルフコンペ (H21.10.24) | サンセットヒルズカントリークラブ | 参加者11名 |
| 忘年会 (H21.11.28)        | 伊予鉄会館            | 参加者30名 |
| 愛媛支部ゴルフコンペ (H22.3.14)  | サンセットヒルズカントリークラブ | 参加者14名 |

## 【平成21年度会計報告】

平成22年4月1日時点での会計報告を下記に示します。

| 収 入                  | 支 出                |
|----------------------|--------------------|
| 前年度繰越金<br>830,679円   | 役員会開催費<br>32,500円  |
| 本部からの補助金<br>150,000円 | ゴルフコンペ<br>100,000円 |
| 利 息<br>132円          | 忘年会補助<br>60,000円   |

|      |           |          |
|------|-----------|----------|
|      | 忘年会補助     | 52,000円  |
|      | 忘年会写真現像代等 | 6,697円   |
|      | 次年度繰越金    | 781,614円 |
| 収入合計 | 支出合計      | 980,811円 |
|      |           | 980,811円 |

### 【平成22年度予算報告】

平成22年度の予算報告を下記に示します。

| 収 入      | 支 出               |
|----------|-------------------|
| 前年度繰越金   | 役員会開催費            |
| 781,614円 | 30,000円           |
| 本部からの補助金 | 印刷通信費（葉書、写真プリント等） |
| 150,000円 | 40,000円           |
|          | 支部主催ゴルフコンペ補助      |
|          | 90,000円           |
|          | 忘年会補助等            |
|          | 90,000円           |
|          | 同窓会補助             |
|          | 60,000円           |
|          | 予備費               |
|          | 621,614円          |
| 収入合計     | 支出合計              |
| 931,614円 | 931,614円          |

### 【平成22年度事業計画】

平成22年度の事業計画につきましては、この土木海洋会だよりをご覧ください。ところには、支部総会、本部総会、第1回支部主催ゴルフコンペと忘年会は実施済みとなっていることと思います。

第2回ゴルフコンペなど、今後も行事を考えておりますので、多数の方の参加を心よりお待ちしております。また、同窓会を開催される場合には、「愛媛大学土木海洋会愛媛支部活動補助金交付要綱」に基づき、一人当たり最大3,000円の補助金を交付しますのでご活用ください。

|      |             |            |
|------|-------------|------------|
| 役員会  | (H22.7.17)  | 伊予鉄会館      |
| 支部総会 | (H22.8.21)  | 愛媛大学 校友会館  |
| 本部総会 | (H22.8.21)  | 愛媛大学 校友会館  |
| 愛媛支部 | 第1回ゴルフコンペ   | (H22.11.6) |
| 忘年会  | (H22.11.27) | 伊予鉄会館      |
| 愛媛支部 | 第2回ゴルフコンペ   | (H21.2~3)  |
| その他  |             | 同窓会等補助など   |

### 【平成22年度役員紹介】

平成22年8月21日の支部総会より次年度の総会までの間、次に示します役員により、愛媛支部の運営を行ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

|       |               |                |
|-------|---------------|----------------|
| 支 部 長 | 山田 康晴 (土木53年) | 愛媛県            |
| 副支部長  | 勝谷 雄三 (土木49年) | 松山市            |
| 幹 事 長 | 明日 孝憲 (土海9年)  | 愛媛県            |
| 幹 事   | 大賀水田生 (土木49年) | 愛媛大学           |
|       | 飯田 和樹 (海洋54年) | 四国小松フォークリフト(株) |
|       | 中尾 均 (土木54年)  | 伊予鉄道株式会社       |
|       | 高橋 正雄 (海洋55年) | 三井住友建設株式会社     |
|       | 福岡 修一 (土木55年) | ショーボンド建設株式会社   |
|       | 村上 浩司 (海洋55年) | 芙蓉コンサルタント株式会社  |
|       | 加藤 幸彦 (土木55年) | (株)四電技術コンサルタント |
|       | 永井 康生 (土木56年) | 愛媛県            |
|       | 白石 研司 (土木58年) | 株式会社平成工業       |
|       | 大倉 修 (土木62年)  | 愛媛県            |
|       | 栗原 弘和 (土木2年)  | (株)四電技術コンサルタント |
|       | 渡邊 政富 (土木2年)  | 渡邊建設株式会社       |
|       | 山本 修嗣 (海洋2年)  | 五洋建設株式会社       |
| 監 事   | 友近 榮治 (土木48年) | 南海測量設計(株)      |

なお、支部の運営やご意見などがございましたら、遠慮なく幹事長にご一報いただきたいと考えております。いただきました意見等を参考に、支部の運営をよりよいものにしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## 【平成21年度のおもな行事の紹介】

### ★愛媛支部主催 ゴルフコンペ（10月）★



平成21年10月24日(土)にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペの集合写真です。

総勢11名で競われた結果は、優勝は福岡修一さん（土木S55年卒）、準優勝は加藤幸彦さん（土木S55年卒）でした。

初心者歓迎します！

### ★平成21年度 忘年会★



平成21年11月28日(土)に伊予鉄会館において、30名の参加により行われました。

みなさんの近況を報告していただき、有意義な忘年会でした。

産官学の方々が気兼ねなく集える場所

ですので、有意義な時間が過ごせることは間違いありません。今後の忘年会には是非とも参加のほどよろしくお願ひします。

### ★愛媛支部主催 ゴルフコンペ（3月）★



平成22年3月14日(土)にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペの集合写真です。

総勢14名で熱戦が繰り上げられました。

以上、愛媛支部の活動報告を終わります。

## 投 稿

宗片 康修（鉦山38年卒）

2年に一度のクラス会が本年も到来、全国に散らばっている仲間で、「わしがやる」と手を上げて、その地区での開催を行っています。

普段、街でのクラス会だから、変った場所で過去、未体験のことをしていただくとうと、挙手したのが筆者。

H22年6月3日(木)13:00、広島県三次（みよし）市の三次ワイナリーに集合。試飲したり、工場見学したり、昼食をとるものと自由にやっていた。

全員揃った所で、まずは、お隣の「奥田元宋・小由女美術館」で、「藍染筒描の世界」と常設の奥田夫妻の絵画・人形展を鑑賞、ちよっぴり文化の香りを堪能、いずれもすばらしいものであった。

次の会場、上田町にある「ほしはら山の学校」へ。ここは8年前廃校になった小学校を地域の活性化に活用しようとリニューアルした場所。年間には色々な行事が行われている。HP（ほしはら山の学校で検索）をご覧ください！

豊敷きになった元教室には、同輩の陶芸家、つくば市で活躍中の藤原父子の「陶器&磁器の作品展」を鑑賞、地区の人もおいでくださり、見事さに感心したり、買い求められるものも。

校庭の一角で、準備していただいていた「羊の丸焼き」を前に、生ビールで「かんば〜い！」

北海道では当たり前だが、内地（古い言葉で失礼！）での羊丸焼きは珍しく、筆者以外は全員初めての光景・味わい。我々は70歳前後だから、肉は余り欲しくなくなっているが、豪華さ・旨さ・ほろ酔いも手伝い「旨い・旨い」とつつい手が出てしまう。学生時代の北海道実習や旅の思い出話等など、満面の笑みと大きな笑い声が満開となっていた。

民宿「霧望荘」の迎いの車が到着、後ろ髪を引かれる思いで、夜の会場へ。

普段、豪華ホテルが会場だが、今回は海拔600mほどだが山頂のすぐ麓。

荘の主による手作りの展望台からの眺めやお風呂に疲れを癒し、またも「かんば〜い！」。

日本で、3箇所でしか食されていないと言われている「ワニ」の刺身、これもほとんどの人が初味なので、恐る恐る口にする人、アリゲータの話や因幡の白兔など、話題沸騰。荘の客は我々だけ、大部屋で喧々ごうごう、小部屋へ入っても、未明まで飲み、かつ話と笑いは尽きない。年に似合わずよく飲めるものだ。

我々「愛大鉾山38クラス会」は16名の卒業、まだ1名も欠けていないし、寝込んでいる者も居ない。何らかの小病と同居はしながらではあろうが、全員存命なのが誠に喜ばしい限りです。そんなに楽しい昔の仲間との語り合いには、病も吹っ飛ぶと言うもの、長生きしたいからと、そ～としているよりも、生きている内に楽しいことには、無理しても参加すべしと筆者は動いている。

翌4日朝は、見事な雲海風景、時期外れの滅多に見れない光景、皆が日ごろの行いが良いから、お天道様も応援してくれたのに違いない。

莊を出て、筆者の田んぼに入る前のアイガモやヤギを見たり、牛の放牧場では、牛の快感となる頬を叩くと、喜んで、テールを振りふり、舐めにくる、あの旨いタンだが、舌はざらざらで痛い、牛を真近で見るも初めての仲間、質問も出たり、幼い頃を思い出すもの、等等、これも普段体験することの無い初体験、「孫を連れて来たいなあ」と言う声も出る。

緑に囲まれ、綺麗な空気、鶯やホトトギスの美しい声、昔の田舎の原風景が残る上田町をしっかりと堪能していただいた。

10時半、町内の「平田観光農園」へ行き、さくらんぼ狩りを予定していたが、今年は冷春で実りが遅れていて、不可！

昼前に、ゴルフ場へ行くもの、関東へ早めに帰るもの、残念だが5名少なくなったが、昼食には、「ダッチオープン料理」を火起こしから始めて、飯ごう飯も作る。50年前の学生時代、当時の最大の娯楽、映画の西部劇で、幌馬車の後部に吊り下げられて、ガチャガチャ音を発していた、あれがダッチオープン、懐かしい1●

肉を炒め、野菜を入れ、最後にワインをどどどっと注いで、男の野外料理の出来上がり、好～い香り、旨い・旨いと笑顔・笑顔・笑顔。

午後1時半、愉快だったが、別れの時間、飛行場へ、高速バス停へ、と夫々に向かった。夕刻、筆者の所へは、ゴルフを楽しんだ二人が帰ってきて、またも深夜まで、飲みかつ笑ったのは言うまでもない。

2年後、陶芸教室を予定の関東での開催が今から楽しみだ。  
どんな形のものを焼こうかな？



## 研究室仲間

松尾 暁（土海7年卒）

私は平成6年度から3年間、稲田善紀教授が指導する岩盤工学・建設材料開発学研究室に在籍した。ありがたいことにここでの3年間はその後の私に大きく影響を与えている。当時、岩盤工学研究室は、低温および高温物質の岩盤内空洞貯蔵、油圧式岩盤破砕機、地下室の4つの研究テーマについて取り組んでおり、私は低温のテーマを任されていた。ここで学んだ専門知識はもちろんのこと、課題解決の方法はその後社会に出ても非常に役に立っている。また、もう一つ大きく影響受けているのは人脈である。当時ご指導して下さった先生や技官の方々からは人生の歩き方までも教わった。また、上は2年先輩から下は2年後輩まで、5年間の同門の先輩後輩、いわゆる研究室仲間とも親しくお付き合いさせていただいた。この人脈は私にとって非常に貴重なものである。大学を出て社会人になっても、折に触れこの仲間と会い、建設業という同業のため、酒を酌み交わしながら情報や意見を交換した。また、お互い家族ができれば家族ともどもお付き合いした。しかし、年々お互いの時間が許せず会う機会も減ってきている。残念なことである。

そんな中、研究室仲間のひとりである1年後輩の中戸和正君が、病気で厳しい状況にあるとの電話があり、今年6月今治の病院にお見舞いに行った。待合室で奥さんの暢子さんがこれまでの経過について話してくれた。病室のドアを開け中に入ると、彼は今までと違う姿でベッドに横になっていた。2年半ぶりの再会だった。途中点滴を受けながらも、病気の状況、島根原発の現場のことを話してくれ、また我々の近況について話す笑顔で聞いていた。「また来るから。しっかりな。」と声をかけ病室を後にした。それから10日もたたないうち、亡くなったとの連絡があった。信じられなかった。何もかも早すぎる。貴重な仲間を失った瞬間だった。彼のご冥福を祈るばかりである。

恩師、研究室門下生、同窓生など、普段の忙しさにかまけてついつい疎かにしがちであるが、このような方々とのつながりを改めて考えさせられている。



稲田先生退官記念パーティーにて  
左が筆者、右が中戸君



島根原子力発電所3号機取水トンネル建設工事  
大林組JV 上段 左から3番目が中戸君

## 海洋計測講座同窓会 報告

藤原 隆一（海洋56年卒）

1. 日 時 平成22年5月2日(日) 18:00-20:30
2. 場 所 助格三番町店（松山市三番町2丁目5-4）
3. 出席者 39名

|       |       |       |       |       |      |
|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 柿沼 忠男 | 名誉教授  | 赤松 敏也 | 海洋56  | 久保田寿士 | 海洋63 |
| 伊福 誠  | 教 授   | 後藤 隆志 |       | 高橋 光紀 |      |
| 青山 喜一 | 海洋53  | 藤原 隆一 |       | 二神 修  |      |
| 永岡 栄一 |       | 木田 憲二 | 金澤 剛  | 海洋 1  |      |
| 飯田 和樹 | 海洋54  | 小林 真三 | 佐々木 昇 |       |      |
| 大西 裕之 |       | 大谷 淳二 | 三好 弘文 | 海洋 3  |      |
| 中川 達郎 |       | 加藤 一哉 | 海洋59  | 大田 孝  | 海洋 4 |
| 内田 裕  | 松本 貞史 | 米澤 泰雄 |       |       |      |
| 高橋 正雄 | 海洋55  | 三吉 正英 | 井上 清紀 | 海洋 5  |      |
| 西岡 陽一 |       | 石崎 淳  | 澤田 崇  |       |      |
| 眞矢誠一郎 |       | 世木 康裕 | 三好 栄一 | 土海 7  |      |
| 村上 浩司 |       | 高石 盛大 | 和田 公輔 |       |      |
| 青木 豊文 | 海洋56  | 谷本 雅史 | 海洋62  | 上奥 剛  | 土海 8 |

快晴のGWの最中、陽光の内から氣勢を上げて来る猛者、来松途中で車故障のためやむなく参加できなくなる者と波乱含みの幕開けとなりましたが、総勢39名、店を閉め出されることなく会を全うすることができました。今回は最初の講座名をタイトルに使わせていただきますが、環建卒業生のみなさんのご参加お待ちしております。来場すると、皆様ご存じの小林真三氏からプレゼントが……。

なお、助成いただいた浄財は、速やかに地元・松山の地に還元されましたことを付け加えまして報告の結びとさせていただきます。



## 土質工学研究室の同窓会開催報告－榎先生退職前祝い会－

中島 淳子

榎明潔先生は、昭和55年4月から平成5年3月まで愛媛大学工学部海洋工学科ならびに土木海洋工学科の助手、助教授として勤務されてきました。鳥取大学工学部土木工学科教授として赴任されて18年、来年（平成23年）の3月にはめでたく定年退職の予定です。

今年（平成22年）の8月に愛媛大学で第45回地盤工学研究発表会が開催される機会を捉えて、榎先生の退職前祝い会の開催を企画しました。開催日は8月18日、会場は新築なった愛媛大学校友会館のレストラン「セ・トリアン」での開催とし、榎先生が愛媛大学勤務時代に関わった卒業生を中心に参加を呼びかけましたところ、遠くは北海道など、全国から70名を超える参加者が集まって、盛大な会となりました。また、八木則男名誉教授と柏谷増男名誉教授を始めとして、現役の教職員にも多数参加いただきました。久しぶりに会う同窓生の多くは、お互いに歳は取っていますが、気持ちは学生時代に戻って、時間の経つのも忘れて大いに盛り上がっていました。

退職前祝い会に先だって開催しました「土質問題の機構解明の面白さ－65年の人生を語る－」と題する講演会では、大学院を修了してから40年の間に研究してこら

れた砂杭の造成機構、降雨時の斜面崩壊機構、一般化された極限平衡法、地震時の斜面崩壊機構などの内容をわかりやすく、また、示唆に富んだ解説を戴きました。なお、榎先生の講演に関わる資料は、H P (<http://www.soil.cee.ehime-u.ac.jp/>) にアップしていますので参照ください。

最期に、本会に参加戴きました皆様に心より御礼申し上げますと共に、榎先生の今後のご活躍をお祈りしています。



参加者集合写真



## 『鈴木幸一先生を囲む会』ご報告

門田 章宏 (土木4年卒)

鈴木幸一先生は、これまで22年間、愛媛大学工学部土木工学科、土木海洋工学科、環境建設工学科において、様々な教育・研究や進路指導を行ってこられました。また、この4月より鈴木幸一先生は、新居浜工業高等専門学校の校長として就任されご活躍されています。これを期に、愛媛大学・水工学研究室の卒業生が集まり、これまでお世話になった鈴木幸一先生をお招きし、謝恩および祝賀の会として「鈴木先生を囲む会」を開くことになりました。

鈴木先生を囲む会は、平成22年9月18日土曜日16時から、国際ホテル松山で開催され、第一期生から平成22年卒業の様々な世代の卒業生64人が集まり盛大に行われました。この会では、はじめに、渡邊政広先生より鈴木先生の簡単な略歴などの紹介をして頂きました。続いて、これまで研究室に関する事務を長年担当していただきました重松和恵様より花束贈呈が行われました。その後、水工学研究室第一期生である栗原崇様より乾杯の発声を行って頂き、鈴木先生と卒業生との歓談が始まりました。歓談中は、鈴木先生が、それぞれのテーブルを回り、卒業生と昔の思い出等を懐かしく語っていました。最後に、記念品の贈呈および鈴木先生のお話があり、その後、水工学研究室の卒業生全員が輪を囲み愛媛大学の学歌を歌い、囲む会が終わりました。

この会を期に、5年後も卒業生が集まろうという「5年会」を開きたいと思います。また皆さんに連絡します。水工学研究室のみなさん、また皆で集まりましょう！



「鈴木先生を囲む会」参加者全員で写真撮影

## 新たな参加者歓迎 第8回えざわ会

出席メンバーの一人 岩丸 純芳（歿37年卒）

東京神田神保町の学士会館は「野球発祥地」記念碑のある旧帝大卒専用の由緒ある会館であるが、毎年江澤政男先生の名前で借りて8年目になる。今年も3月28日、出席者16名（卒年37-44年、例年出席の36年が欠席、遠隔地は過去に愛媛からの出席者もあったが今年は私が宮城から）で例年通り昼食会と千鳥が淵あたりの花見散策、夜は寄席観賞を行った。えざわ会は良き幹事団、37首藤八起氏、39神田弘昭氏、39中村才治氏の3氏に恵まれ、更に愛大卒の落語家古今亭菊志ん氏の応援団を自負する37宮井雄二氏が夜の寄席案内を担当してくれる。

昼食会は全員の近況報告と意見交換で始まる。高齢でも現役で仕事を続けている方々もあるが、私はとっくにリタイヤしている。皆さんゴルフや趣味と多岐に亘って面白い話が聞けるが、中にはご近所や町内会の付き合いとか病気で倒れた時の様子などの報告もある。我々関西以西の出身者が大関東に居を構えて町内会の話とはと、また格別の感がある。

昼食会の終わりに私のハーモニカ1曲だけが恒例となっている。江澤先生は新居浜に赴任される前に朝鮮半島の時代がお有り、昔我々のコンパに来て頂いた時アリランやトラジを歌われていたので、8年前のえざわ会でトラジを吹いたのが始まりである。今年も昼食会の4時間があつと言う間に過ぎてしまい、次は花見と玄關の外に集った。

例年であれば全員で桜の並木に向かって歩き始め、大勢の花見客の人の流れに乗って皇居北の丸から千鳥が淵あたりをぞろぞろと賑やかに散策、混み合っているがこれぞ日本の首都大東京の花見だと勝手に満足をして、地下鉄九段下の辺りで解散する事となるが今年は多少違った。一つは宮井氏情報で寄席の演目が楽太郎円楽襲名披露なので早く並ばないと入場出来ないとの事、もう一つは江澤先生が今回は、神保町が自宅から遠いので一週間先に自宅近くの石神井公園で会おうと欠席された事、従って花見をして解散する数人だけの花見となった。

宮井氏と我々有志7人は新宿末広亭入場待ちの長い行列に並んだ。夕暮れになり震える様な寒風が吹き始めた頃、37年S氏が文化勲章を受けると知った。S氏は列を離れてワンカップとつまみを調達して来てくれたので防寒対策としてもお祝いとしても申し分のないものとなった、Sさんおめでとう。勿論その後の迫力あるナマ

落語と帰りのもんじゃ焼きは久しぶりで良かった。

江澤先生と首藤幹事は翌週に石神井公園で散歩歓談し、その様子は写真付きで全員に報告された。私はえざわ会幹事から投稿指示を受けここ数年の会誌と愛大海洋ホームページを読み直した。37年の前後35、36年と38、39年は毎年の様にクラス会報告があるが37年だけは過去にもクラス会はない、これは37年が一騎当千の兵だけだからか。

我々老年者と違って関東環建若手が元気で頼もしい報告、ご発展を祈ります。本部のご苦勞は会費収入減少、同窓会の官民間接触の気遣い、同窓会名簿の個人情報の気遣い等大変の様子。会員三千数百名で会費納入者800人は少な過ぎる、とは言え納入者増加対策のために、読んで見たくなる様な文章にせよとは荷が重い。これを読んでいる方々、三千円の支払い致しましょうよ。

同窓会の官民接触や個人情報の件は若い世代にお願いだ、もう少し使い易い法律に修正して欲しい。お役所の地域説明会で地震避難のときご近所の老人を助けましょうと言われたのでその老人の名簿と言ったら個人情報なので役所の人も把握出来ていないと、何かがおかしいではないか。私の趣味になったダンスのサークル名簿も最近住所不明の電話番号だけになっている。

本題えざわ会は来年も花見の時期に開催されますので、案内状（今年は27通）ご希望の方は幹事団にご連絡頂きたく宜しくお願いします。



## 平成22年度 愛媛大学土木海洋会 総会 議事録

開催日時：平成22年8月21日(土) 午後3時～  
開催場所：愛媛大学校友会館  
出席者数：33名

議 題

議 長：大仲 祥司 副会長（会長代行）（21年度）  
河野 徹 会 長（22年度）

### 1) 平成21年度事業報告について

木下幹事長より、総会資料－1に基づき、平成21年度中に実施された諸事業について説明がなされ、これらが全会一致で承認された。

### 2) 平成21年度決算報告について

木下幹事長より、総会資料－2に基づき、平成21年度の決算報告がなされるとともに、この会計について大門監事より適正であることを認める旨の会計監査結果報告がなされ、これらが全会一致で承認された。

### 3) 平成22年度役員について

木下幹事長より、総会資料－3に基づき、平成22年度役員（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

平成22年度の新役員は、以下のとおり。

- 顧問：鈴木 幸一（旧教員）
- 会長：河野 徹（土42）
- 副会長：岡村 未対（教授）、新宮 勝哉（土42）
- 幹事：黒坂 佳司（海57）
- 評議員：松下ゆかり（環21）、村上将展（環21）

### 4) 平成22年度事業計画について

木下幹事長より、総会資料－4に基づき、平成22年度事業計画（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

なお、同窓会を活性化するための幾つかの意見が出され、事務局を中心に検討

することとなった。

5) 平成22年度予算について

木下幹事長より、総会資料-5に基づき、平成21年度予算（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

なお、年会費の納入率を向上させるための意見が出され、事務局を中心に検討することとなった。

6) その他

なし



平成22年度・愛媛大学土木海洋会総会（愛媛大学校友会館）

## 事務局だより

### 1. 会費についての内規

平成12年より70歳以上の会員の会費は免除することにしております。また60歳以上の会員は終身会費として会費を一括払いすることができるようになっておりますのでご活用ください。なお会員の方々の年齢は卒業年次により計算させていただいておりますことをご了承ください。

#### 会費についての内規

1. 会費は、年額3,000円とする。ただし、70歳以上の会員の会費は免除する。
2. 60歳以上の会員は、終身会費として一括払いをすることができる。終身会費は、60歳以上65歳未満の会員に対しては、20,000円、65歳以上の会員に対しては、10,000円とする。
3. この内規の変更は、総会の議決による。

### 2. 会合への助成金制度

この制度は、同窓生の皆様に、同窓会活動を活発化していただくために設けられたものです。同窓生の親睦などの目的に活用していただきたいと思っております。下記の細則2の提出物を添えてお申し込みください。事前のご相談もお受けいたします。

〈同期会・研究室同窓会・職場班会・地区同窓会などに対する助成金制度〉

助成金額：出席者会員1名当り1,000円を上限とする。ただし、会員5名以上の会合で、助成最高額は50,000円とする。

#### 上記助成金制度の細則

##### 細則1. 助成対象

出席者の全員または一部が会員である会合に対し助成する。

##### 細則2. 本部事務局への提出物

1. 案内状1部（土木海洋会への会費納入催促の文をなるべく記載のこと）

2. 最終出席者名簿1部（氏名、卒業学科・年、その他（勤務先、住所など））
3. 集合写真1枚（日付入り）
4. 住所変更の報告
5. 土木海洋会だよりへの投稿原稿

#### 細則3. 助成回数

同一組織による会合への助成は、年度内において1回とする。

上記の助成は、平成9年度より実施する。

### 3. ホームページについて

土木海洋会のホームページを開設しました。行事等の情報を掲載いたしますのでぜひご覧ください。支部行事、会合の案内等のホームページへの掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

土木海洋会ホームページアドレス <http://www.cce.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

### 4. 土木海洋会だよりへの投稿のお願い

毎年12月に発行しております「土木海洋会だより」への掲載記事を募集しております。

個人・グループの近況、活動報告、技術記事などを寄稿ください。掲載ご希望の方は事務局までご連絡ください。

## 愛媛大学土木海洋会だより 第16号

---

---

発行日 平成22年●月●日

発行者 愛媛大学土木海洋会

〒790-8577 松山市文京町3番

愛媛大学工学部環境建設工学科内

☎ 089-927-9823

F A X 089-927-9823

Eメール dokai@cee.ehime-u.ac.jp

郵便振替 加入者名：愛媛大学土木海洋会

口座番号：01640-6-37779

銀行口座 加入者名：愛媛大学土木海洋会

伊予銀行城北支店（支店番号150）

普通口座 150-1-1231698

ゆうちょ銀行一六九（イチロクキュウ）店

当座 0037779

---

---

**土木海洋会**

**検 索**

土木海洋会ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

メールアドレス

[dokai@cee.ehime-u.ac.jp](mailto:dokai@cee.ehime-u.ac.jp)

愛媛大学工学部環境建設工学科ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp>